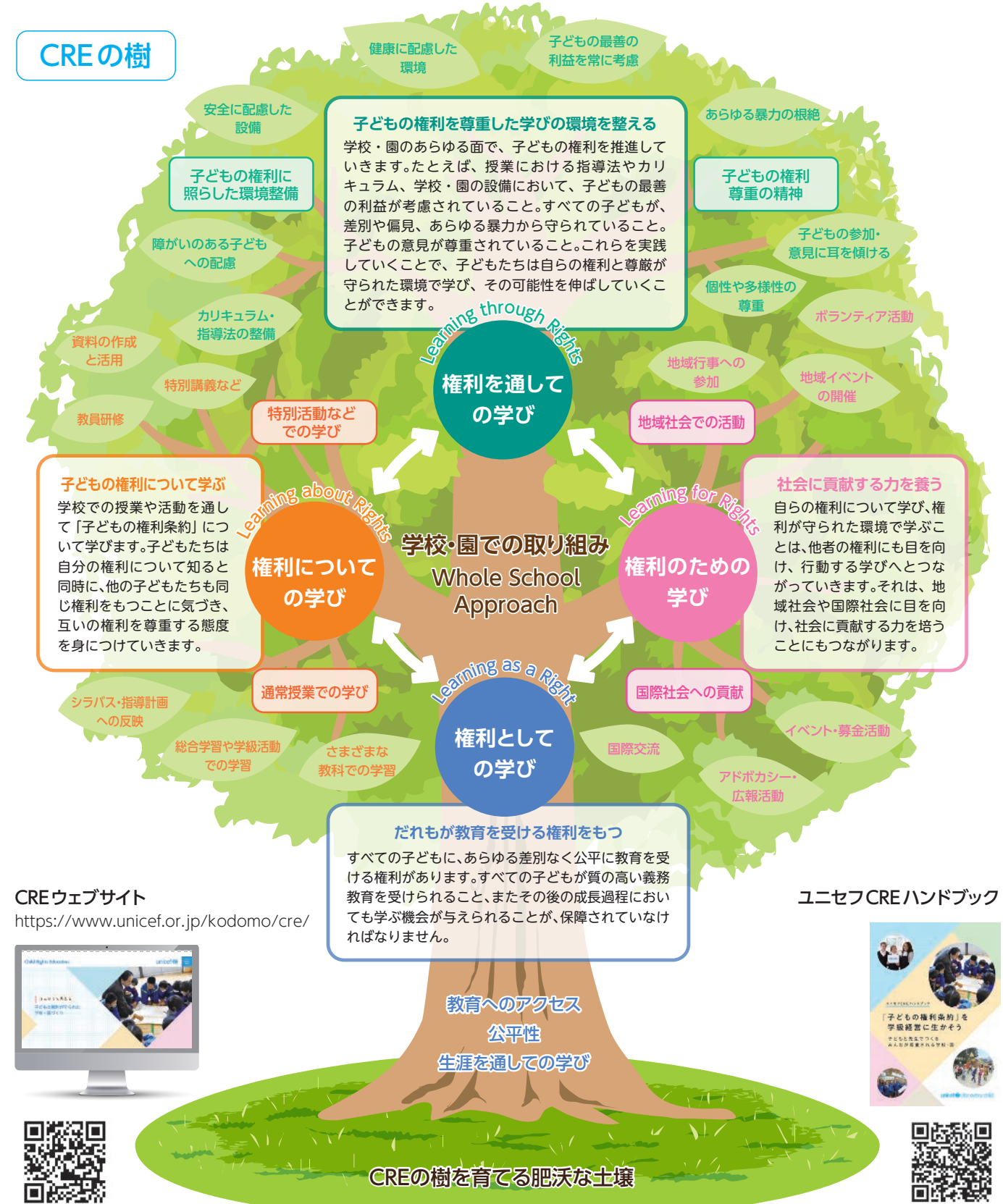


子どもの権利が守られた学校・園づくり

ユニセフの提唱する「Child Rights Education (CRE) : 子どもの権利を大切に教育」は、さまざまな側面から学校・園において子どもの権利を推進し、子どもの力を育て可能性を伸ばしていくことを目指します。すべての子どもの「学ぶ権利」を保障すること。人権と子どもの権利について学び、理解を深めること。子どもたちの権利が守られた教育環境を整えること。他者の権利にも目を向け、社会に貢献する力を養うこと。CREはこれらの4つの側面から構成されています。そして、このCREの提唱する取り組みを、ひとつの大きな樹にたとえて表現したものが、下のイラスト「CREの樹」です。この樹全体が学校・園を表し、具体的に教育活動のどのような場面で子どもたちの権利を推進できるか、またどのような活動に取り組めるかを提示しています。



ユニセフの「子どもの権利」関連資料およびウェブサイトをご活用ください



子どもの権利条約
カードブック
(B5冊子 / 30ページ)



学習資料 子どもの権利条約
(第1～40条抄訳一覽付き)
(A3 / 1枚 / 両面)



先生向け
ユニセフCREハンドブック
(A4冊子 / 14ページ)



先生向け
ユニセフCRE実践記録
(A4冊子 / 10ページ)



先生方・指導者向け
子どもの権利とスポーツの原則
(A4冊子 / 30ページ)



子どもの権利とスポーツの原則
「ユニセフ こどスポ」ウェブサイト
<https://childinsport.jp/kodomo/>
ユニセフ こどスポ



CREウェブサイト
子どもの権利が守られた学校・園づくり
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/cre/>
ユニセフ CRE

● 資料をご希望の方は FAX またはメールにてお申し込みください。

冊子名	値段	希望冊数
子どもの権利条約カードブック	1冊目無料 / 2冊目から 60円	
学習資料 子どもの権利条約	無料	
ユニセフCREハンドブック	無料	
ユニセフCRE実践記録	無料	
子どもの権利とスポーツの原則	1冊目無料 / 2冊目から 170円	

学校・園名	
ご担当者名(職)	
ご住所	〒
電話	
Eメール	@

※学校・園からご注文いただく際には送料はかかりません。
実費ご負担については、資料送付時に同封する振込用紙にて後日送金をお願いいたします。

送付先 FAX: 03-5789-2034 Eメール: se-jcu@unicef.or.jp
公益財団法人 日本ユニセフ協会 〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス
TEL: 03-5789-2014 ホームページ: www.unicef.or.jp

Child Rights Education (CRE)

子どもの権利を大切に教育 先生のための実践ガイド

1989年に国連総会で採択された「子どもの権利条約」。子どもたちが心も体も健やかに、もって生まれた可能性を十分に伸ばしながら成長できるための権利を包括的に定めたこの条約は、現在までに世界で196の国と地域が締約。世界で最も広まっている人権条約となっています。ユニセフは、この「子どもの権利条約」を活動の基盤とし、世界のすべての子どもの権利の実現と推進を目指して活動しています。

日本政府も「子どもの権利条約」を1994年に批准しました。日本の子どもたちにとっても大切な条約です。にもかかわらず、日本ではまだまだ知られていない条約かもしれません。一方で、日本国内でも「こども基本法」の施行をはじめとして、子どもの権利を尊重する動きは活発化しています。

子どもたちが一日の多くの時間を過ごす学校・園でも、ぜひ「子どもの権利」の視点を日々の生活や学びに取り入れてみませんか。「子どもの権利」についてともに学び、子どもたちの権利を推進していくことが、子どもたちの自己肯定感を育み、みんなが安心して生き生きと過ごせる教育環境づくり、そして子どもたち一人ひとりが未来に向かって可能性を伸ばす力につながっていくことでしょう。



学級目標づくり

みんなの権利が守られた学級づくり 「私たちの学級憲章」をつくってみよう



ユニセフは、教育現場で子どもの権利を推進する具体的な取り組みとして、「子どもたちの権利が守られた学級憲章（学級目標）づくり」を提唱しています。先生も子どもたちともに「子どもの権利条約」を通して子どもの権利について学び、一人ひとりの権利が大切にされる、みんなにとって過ごしやすく学びやすい学級をつくるために、自分たちにできることは何か、また権利を尊重するということがどのようなことかなど、話し合いを重ねながら「学級憲章（学級目標）」としてまとめていきます。子どもたちが主体的に考え行動する力を養うとともに、自分だけでなく他者の権利にも目を向ける機会になります。ぜひ学級目標づくりの過程に、「子どもの権利」の視点を取り入れてみてください！

令和4年度にこの活動に取り組みされた西東京市立保谷小学校での活動のようすとともに、「子どもたちの権利が守られた学級憲章(学級目標)づくり」のプロセスをご紹介します。

学級憲章(学級目標)づくりのプロセス

1時間目 子どもの権利を知ろう

まず最初に、「子どもの権利条約」の学びを通して子どもの権利についての理解を深めます。大切だと思う権利、守られている権利や守られていないと思う権利の話し合いを通じて、「子どもの権利条約」が定める具体的な権利について知り、自分たちとのつながりを考えます。




2時間目 大切な権利を選んでみよう

子どもの権利についての学びをもとに、これからの一年間、一人ひとりの権利が大切にされるクラスをつくっていくためには、「子どもの権利条約」のどの条文が特に大切か、どのようにみんなの権利を守っていくか話し合い、先生も子どもたちも一緒に考えていきます。




3時間目 学級目標を書いてみよう

これまでの話し合いの内容をふりかえりながら、選んだ「子どもの権利条約」の条文をもとに、目指すクラス像を学級目標としてまとめていきます。グループごとに発表したり、みんなでアイデアを出し合ったりしながら、先生と一緒に学級目標に入れる言葉を紡ぎます。




学級目標を掲示しよう

子どもの権利についての学びを通してつくられた学級目標を模造紙に描き、クラスをよく見えるところに掲示します。これからの一年間、学級目標をふりかえりながら、みんなの権利が大切にされる学級を目指して努力を重ねていきます。




学級目標づくりの成果

先生方からのコメント



担当された先生方もたくさんの効果を
感じていらっしゃいました。

学級目標に「子どもの権利条約」というしっかりした根拠ができただけでなく、学級目標づくりの視点が広がったと感じます。

「子どもの権利条約」を通して「学ぶこと」の意味を知ることにより、子どもたちの中に「自分の力を最大限に伸ばしていこう」という意識が生まれたのは大きな意義の一つです。子どもたちの学びに対する意欲が増していると感じます。

「権利を知ったから道徳の授業でもより深く考えられるようになった」、「この条約が世界のもっとたくさんの人に伝わって、もっとたくさんの人が救われるといいなと思った」など、他の教科やSDGs学習につなげて考えるなど、子どもたちがより広い視点で社会を見ることができるようになりました。

子どもたちから、「自分だけでなく、友達の権利も大切にすることを意識しながら生活できるようになった」という声が聞こえてくるようになりました。

自分自身も子どもたちと一緒に「子どもの権利条約」について学べたことに、とても大きな意義があったと感じます。「子どもの権利条約」の学びは、今後の自分自身の教育活動の軸となっていくことと思います。

ユニセフCRE実践記録



セルフアセスメント (自己評価)

子どもたちの権利は守られている？ 学校生活をふりかえってみよう



日々、忙しい学校生活を送る先生方が「子どもの権利条約」について学び、子どもの権利尊重の視点から教育活動を行う機会は少ないかもしれません。子どもたちの権利が守られた学校・学級づくり、そのスタートラインとして、学校環境についてさまざまな視点からふりかえってみましょう。以下の質問に答えてみてください。よく守られている項目もあれば、課題の残る項目もあるかもしれません。課題の残る項目をどのように改善していけるかを考え実施していくことが、子どもの権利が守られ、子どもたちが安心して生活できる、よりよい学校づくりへの一歩になるでしょう。

		とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	全くそう 思わない
子どもの 権利の理解	先生たちは「子どもの権利条約」について学び理解している				
	子どもたちは、学校で「子どもの権利」について学ぶ機会がある				
健全な 学校環境	学校の給食は、子どもの体のことをよく考えて提供されている				
	学校には、子どもが十分な運動をできる環境が整えられている				
	心と体の健康を保つ生活について、子どもたちは学校で学ぶことができる				
精神面の 健康	学校には、必要な時に子どもたちから相談ができ、心理的なサポートをしてくれるおとながいる				
	学校・学級では、子どもたちに過度のストレスを与えないよう、常に配慮がされている				
	サポートが必要な子どもにいつでも手を差し伸べられるよう、先生は子どもたちの日々の状態（ウェルビーイング）に目を配っている				
教育の質	授業を受けることや理解することが難しいと感じる子どもは、個別のサポートを受けることができる				
	学校の教室や設備はよく整備され、子どもたちは快適に学校生活を送れている				
	子どもたちは学校での学びを通して、自分の可能性を伸ばすことができている				
安全性	学校・学級では、先生と子どもたちが互いに尊重し合い、子どもたちは安心して過ごせている				
	校内でいじめが起きた際の対応が決められていて、学校は責任をもって迅速に対応することができる				
	校舎は安全かつ清潔である（火災報知器の設置、トイレの衛生状態、空調設備の設置、など）				
意見表明と 公平性	学校・学級で子どもが何かを変えたいと思ったときには、相談することのできるおとなが学校内にいる				
	児童・生徒会の活動は活発で、先生は子どもたちの自主的・実践的な取り組みを大切にしている				
	学校・学級では誰も差別されることなく、みんなが平等に過ごせている				

同じ質問項目を、児童・生徒会などを中心に、ぜひ子どもたちにも考えてもらいましょう。先生方と子どもたちで、似た回答になる項目もあれば、もしかしたら相反する回答の多い項目もあるかもしれません。ぜひ、子どもたちの声に耳を傾けてみてください。子どもたちと先生方が回答を共有しながら、ともに考え話し合えれば、よりよい学校づくりにつながっていくでしょう。



お知らせ

先生方とともに児童・生徒会が主体となって学校生活を自己評価し、よりよい学校づくりにつなげていくための実践ガイドを、来年度に発行する予定です。

子どもの権利とSDGs

目を向けてみよう 世界の子どもの権利



世界の課題とSDGs

2015年に国連にて採択されたSDGs（「持続可能な開発目標」）。2030年までに達成を目指す17個の目標と169個のターゲットを掲げ、政府や国際機関、企業だけでなく、すべての人がそれぞれの立場から目標達成のために行動することが求められています。SDGsのキーワードは「誰ひとり取り残さない」。持続可能な開発を進めていく過程で、子どもなど弱い立場にいる人々、もっとも厳しい環境下で暮らす人々を、置き去りにしないこと。誰も取り残さない持続可能な社会を築いていくことが、国際社会の決意として掲げられています。



いま私たちは、SDGsの目標達成期限までのちょうど折り返し地点を過ぎたあたりにいますが、世界は以前にも増して、複雑に絡み合う多くの課題を抱えています。ウクライナ危機をはじめとして世界各地で続く紛争。未曾有の規模で世界に広がった感染症。深刻さを増していく気候変動の影響…。これらが引き起こす格差の拡大や世界的な食料危機。そして、世界のどこかで起こる出来事が複合的に絡み合い、日本に住む私たちを含め、世界の人々の生活に影響を及ぼしています。



©UNICEF/UN0639620/Ayen

アフリカ東部では、干ばつの影響で農作物が育たず、家畜が命を失い、多くの子どもたちが栄養不良におちいっている。さらに、水くみに時間を要し学校に通えなくなるなど、水不足がさまざまなかたちで子どもの権利をおびやかす。



©UNICEF/UN0698977/Zaidi

気候変動の影響で、大規模な豪雨と洪水に見舞われるパキスタン。家や農地は流され、多くの学校が浸水の被害を受けている。子どもたちの教育の機会が奪われ、食料不足や衛生環境の悪化が、子どもたちの命と健康をおびやかす。



©UNICEF/UN0597997

2022年2月に激化したウクライナでの紛争。学校や病院、民家が攻撃を受け、いまも多くの人々の暮らしを直撃している。子どもたちの平和な生活は奪われ、その影響は食料やエネルギー危機となって世界に広がっている。



©UNICEF/UN074463/Zehbrauskas

長年におよぶ内戦や政情不安、そして干ばつの影響で、極度の貧困の中で子どもが暮らすスーダン。2023年現在、子どもの6%が深刻な栄養不足が原因で差し迫った命の危機にあり、36.4%が慢性的な栄養不良の状態にある。

子どもの権利とSDGs

日本の学校でも学習が進められているSDGs。世界の課題やSDGsの目標を考えると、ぜひそれらを「子どもの権利」という視点から見てもいいでしょう。SDGsの17個の目標を、「子どもの権利条約」と並べて見てみてください。SDGsの目標には、子どもの権利と重なる目標も多いことに気づくでしょう。SDGsの目標の背景にはさまざまな世界の課題があり、そして、そこには基本的な権利を奪われている人々がいる。とりわけ、弱い立場にいる子どもたちには大きな影響をおよぼします。世界の直面する課題を解決していくことは、子どもたちを含めた、たくさんの人々の権利を実現していくことにつながるのです。

学校でのSDGs学習の際には、SDGsと子どもの権利を結びつけて考えてみることで、より広い視点での学習につながるでしょう。たとえば、SDGsの背景にある課題が、子どもたちからどのような権利を奪っているか、また目標の達成が、どのような子どもの権利の実現と結びついていくかなどを考えて、「子どもの権利条約」の条文を選んでみましょう。すべての課題は、人が生きることと関係しています。SDGsを学ぶ際に「人権」の視点は欠かせません。このような学びが、子どもたちの中に広く人権や多様性を尊重する意識を育むだけでなく、世界の仲間たちとともに歩むことのできる、持続可能な社会の創り手としての成長にもつながっていくことでしょう。



子どもの権利条約

上にある写真の中の子どもたち。どのような権利が奪われているか、SDGsのどの目標と関連しているか、子どもたちの権利を実現し、誰も取り残さない社会を築いていくためには何が必要か、などをみんなで話し合ってみよう。



SDGs関連教材はこちら



SDGs学習用ウェブサイト SDGs CLUB

